

(第8回) 中村 哲 医師による灌漑事業活動について

アフガニスタンにおける干ばつと洪水—気候変動の影響

河野 仁 (専門: 気象学・大気環境学)

長年、アフガニスタンで医療、灌漑事業に取り組んできた医師 中村 哲さんが何者かに銃撃され、死亡したというニュースを妻からの電話で知った。私は中村さんと3年前から存じ上げていた。2017年2月に、京都で中村 哲さんの講演会が開かれ、そこに私と妻は参加していた。中村さんの講演は次のようなものであった。中村さんは、アフガニスタン東部で支援団体ペシャワール会のメンバーと医療活動をしてきた。しかし、近年、アフガニスタンでは旱魃が頻繁に起こるようになり、栄養失調、腸内感染症が急増した。そこで、医療活動以前の問題として、命の水を現地の人に供給する必要を強く感じて、自分の専門外ではあるが、堰や灌漑用水路の作り方について勉強した。そして、日本のようにコンクリートを使ってではなく、アフガニスタンの人が現地で調達できる石や金網などの材料を使って、急流のクナル川に堰を作り、水路を掘り、農地へ灌漑を行い、農作物を育て、収穫を増やしていった。アフガニスタン人が望んでいることは2つある。一つは一日に三度の食事を取る事、一つは家族と一緒に生活する事である。現在は村で食べられないから戦争に動員されているが、自分の村で、食糧生産ができ、家族と一緒に生活できるのなら、彼らは村に帰ってくる。干ばつは年々ひどくなり、現在、アフガニスタンの人口の1/3が飢餓に直面していると報道されている。中村さんはこの灌漑事業を続けていく上で、「近年増加してきた大干ばつと洪水の原因は何で、将来どうなっていくか知りたい」という事を言われた。

講演終了後に中村さんにお会いした。私は気象学が専門だから、アフガニスタンで干ばつと洪水が起こるようになった原因について調べることはできます、と申し出たところ、彼は「是非、お願いしたい」と返事された。それから数か月間かけて、アフガニスタンの気象に関する文献や気象観測データを調べた。調査したところ、アフガニスタンにも気象庁はあるが、気象庁が管理している気象観測データもタリバンの襲撃を受けた時に破壊され一部欠損がある。また、インターネットでアフガニスタンの気象データを検索すると、アメリカ軍が軍事用に使っている気象データや、CIAのホームページも出てくる。ここは戦争中の国だということを知らされた。CIAのホームページや米軍のページは、スノーデンの映画で見た、インターネット経由でこちらのパソコンの中を逆探知できる話を思い出して、あわててこのページを閉じた。とにかく、「アフガニスタンにおける干ばつと洪水—気候変動の影響」と言うタイトルの論文を書き上げ、アフガニスタンの旱魃の原因には温室効果ガスによる地球規模の気候変動が関係している、というレポートをメールで中村氏に送った。(来月号に続く)